

道農政部が反転均平工法研修会

有効性確認 普及へ研鑽

ウェブ会議で現場の様子確認

【岩見沢発】道農政部は12日、空知総合振興局が発注した工事現場において、反転均平工法の普及に向けた研修会を開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、手指のアルコール消毒や検温、ソーシャルディスタンスの確保を徹底して実施。試験的にウェブ会議アプリで関係各所を接続して、リアルタイムで研修した。参加者は作業工程や工法の特徴などの説明を受けたほか、実際に反転耕起を行う工事の様子を確認した。

反転均平工法は、専用のレーザープラウを用いて表土と心土を反転させ、耕起したあとにレーザーレベルなどで運土や整地を行う工法。表土を剥ぎ、心土をブルドーザーで整地したあとに表土を戻す従来工法に比べ、工事コストや施工時間の大幅な軽減が図られる。一方で、工法の特徴から

表土と心土の完全な分離はできず、表土内に心土の混入が避けられないことから、採用に当たっては農家の理解を得ることが必要となる。

同部はこれまでも振興局職員を対象に現地研修会を実施してきたが、今回は初めて試験的にウェブ会議アプリで農村計画課や農地整備課、空知総振整備課、上川総振中部整備室、(株)ラルエンジンニア、(一財)北海道農業近代化技術研究センターなどをつないで研

修した。

空知総振局発注の「経営体峰延第2・1期地区44工区」(福中建設(株)施工)で開催し、空知総振調整課・整備課や東部・南部・耕地出張所、北海道土地改良区、近隣の農家などから約50人が参加した。

はじめに、東部耕地出張所の熊井隆二所長があいさつ。「限られた予算・人員体制の中で、要望に応じて整備を進めていく必要がある」とした上で、反転均平工法の有用性を強調し、今回は若手職員が多く集まったことから「若手職員が自分の業務や受益者への説明などに生かしてほしい」と期待した。

参加者は、作業工程や工法の特徴、適用条件等の説明を受けたあと、実際の作業現場を見学。レーザープラウで表土と心土を反転耕起する様子を確認した。



ソーシャルディスタンスを確保して現場を見学した